
D ボンド C 施工の手引き

株式会社 大建化学

愛知県豊川市新桜町通3丁目30番地5

TEL 0533-86-5625

1. DボンドCの概要

DボンドCは、タイル、レンガ、石類をコンクリート、モルタル、ALCパネル、石綿板(フレキシブルボード)合板(コンパネ)下地に接着施工する内装用接着剤です。DボンドCの組成はアクリル系樹脂を主成分として、耐水性、耐薬品性、耐アルカリ性、耐老化性等接着力を、向上させるために数種類の特殊添加剤を効果的にブレンドしております。しかもセメントを加えて使用するので樹脂とセメントとの相乗効果により強力に接着し安全に施工できます。

2. DボンドCの特徴

- (1) セメント量を増減することにより張り付けモルタルの粘度を自由自在につくることができ軽量タイルから重量タイルまで簡単に施工することができます。
- (2) 耐水性、初期接着力は他の接着力に比較して強力です。
- (3) 下地とタイルとの密着性がよく早期に高強度を生じます。
- (4) 湿式、乾式下地の両方に施工することができます。
- (5) 目地込み時間が短縮できます。
- (6) タイル下地が省略できます。(PC、ALC下地直張可)
- (7) 毒性がなく安全に施工できます。

3. 標準施工方法

- (1) DボンドC 1に対してセメント(白セメントも可)約0.7~1の割合で混練する。(容積比)
- (2) 張り付ける物の重量により、セメント量を増減し適正な粘さに張り付けモルタルを調整して下さい。
 - ① レンガの接着は、DボンドC 1に対してセメント約1~1.3の割合で加え付トロ方式にして下さい。
 - ② 200角タイルは、DボンドC 1に対してセメント約1~1.3の割合で加え改良圧着工法で施工して下さい。(ピブラート方式の採用により能率、安全性が向上できます。)
 - ③ 150角半磁器タイルは、DボンドC 1に対してセメント 1の割合で圧着施工できます。
- (3) 通常ポルトランドセメントを使用しますが、目地材の関係上白セメントを使用する場合は凝結始発時間が早いので練り置き時間を1時間以内にして下さい。
- (4) ハンドミキサーを使用することによりDボンドCとセメントは簡単に混練できます。
- (5) DボンドCに白セメントと顔料を加えて混練することにより、色付張り付けモルタルを作ることができ、カラー目地材を使用しないで同じ効果を出すことができます。
- (6) セミ圧着工法の下コスリ用モルタルは、DボンドC 1に対して、セメント0.7~0.8の割合で混練する。(容積比)

4. 張り付け時間

- (1) 原則として、30～40分以内に張り付けて下さい。
- (2) 張り付けモルタルには、全体に一度にクシ目を入れずに、張り付け直前にクシ目を入れるようにして下さい。
- (3) 凝結始発時間は2時間前後、完全硬化は20時間ですが、気温の差、下地の乾燥度により凝結時間、完全硬化時間に違いがあります。
- (4) 塗付けた張り付けモルタルは、空気にふれ樹脂皮膜ができます。これを皮張現象といいます。手触し指に張り付けモルタルが付着する間にタイルを張るようにして下さい。指に付着しないようになった張り付けモルタルは、けずり落とし新しく塗り替えて下さい。

5. 練置時間

- (1) セメントの硬化を高めるために、DボンドCにセメントを混練後、1時間30分以内に使い終えて下さい。(白セメントの場合30分～1時間以内に使い終えて下さい。)
- (2) 混練した張り付けモルタルが固くなった場合は、必ずDボンドCで調整して下さい。

6. 下地について

- (1) 下地に付着したセメント灰汁、レイタンス、油等はよく除去して下さい。
- (2) 下地モルタルの養生は原則として、夏期で7日、冬期10日程度必要とします。
- (3) 養生不足の下地については、原則として使用を避けて下さい。
- (4) 病院の手術室等タイルを四面に張る場合は、四隅をVカットにしてコーキング剤を入れて下さい。
- (5) 下地は平滑に金ゴテ仕上げにした方が、接着剤の使用も少なく接着強度も強くなります。
- (6) 合板(コンパネ)下地に、磁器150角、デザインタイル200角以上の重いタイルを張る場合は、DボンドC 1に対してセメント0.7～0.8(容積比)を加えて、クシ目をわずかに立て下地にこすり塗りをして乾燥させ、改良圧着方式で施工して下さい。(張り付けモルタルを固く混練した場合も同様の処置をして下さい。)
- (7) 下地モルタルの不陸箇所、凹凸部の修正はDボンドC入りのモルタルを作り修正して下さい。
- (8) 合板、石綿板下地は、胴縁材、間柱が正確に施工されているか確認して下さい。

7. 施工上の注意

- (1) 下地に強く押し付けるようにコテを使い、3～5mm位クシ目を入れて下さい。
- (2) クシ目はタイルを張り付ける直前に入れ、よくもみ込んで張って下さい。
- (3) 目地入れは、タイルがよく接着してから入れて下さい。
- (4) 作業中、張り付けモルタルが、タイル表面に付着した場合は直ちに拭き取って下さい。
- (5) 道具はたえず張り付けモルタルの乾燥を押さえ、湿った状態に保って下さい。
- (6) 合板、石綿板、ALCパネル等弱い下地の窓、出入り口等の開口部の施工は改良圧着施工にして下さい。
- (7) 輸入タイル等の吸収率の高いタイルは少し水に湿らして下さい。

8. 保管について

- (1) 必要量取り出し、密封して下さい。
- (2) 直射日光を避け、冷暗所に保管して下さい。
- (3) 冬期間、製品の凍結に注意して下さい。

9. 下地材による施工上のポイント

■PCP板 モルタル下地の場合

- (1) 原則として、標準施工基準に基づいて施工して下さい。
- (2) 磁器150角、デザインタイル200角以上の重いタイルは、改良圧着施工の方法で施工して下さい。

■合板(コンパネ)石綿板(フレキシブルボード)

- (1) 原則として、標準施工に基づいて施工して下さい。
- (2) 磁器150角、デザインタイル200角以上の重いタイルを張る場合は、下ゴスリ用張り付けモルタルDボンドC 1に対してセメント0.7～0.8を、わずかにクシ目を入れながらコテを押し付けるように、下ゴスリして下さい。
上記、下ゴスリ用張り付けモルタルが乾燥後、改良圧着施工をして下さい。